

富山県国民平和前行進実行委員会ニュース No 5



6月8日南砺市



稲の青々とした田んぼを抜けて歩きました。交流会には約20人が参加し、車で移動し、らくらグリーンモール横にて宣伝行動を行いました。



6月6日 富山市婦中町では10人が参加してスタンディング

6月10日小矢部市



石動駅前交差点でスタンディングの後、リレーチームと交流して、市役所まで行進。交流会では「人間をかえせ」の群読を全員で行いました。約20人が参加。翌日も地域行動として行進を行いました。

6月11日 石川県境にて 引継ぎ式



富山からは小矢部のみなさんを中心に20人、石川からは30人が引継ぎ式に参加。他に反核マラソンの皆さんが富山側11人石川側からもそして、石川からうたごえの皆さんも。



小矢部市役所から県境まで最後のリレーチーム。富山県内、最後のスタンディング。

富山—広島コースは6月1日に朝日町をスタートし、11日石川へ引き継ぎました。

今年の参加者はリレーチームに約90人、地域行動は一部リレーチームとの重複も含めて約500人が参加しました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大で参加をひかえていた団体も今年は参加しています。昨年に引き続き、自治体交流会では被爆体験記の朗読を行いました。参加者も、目が熱くなることもたびたびでした。また、「青い空は」を全員で歌ったり、峠三吉さんの「人間をかえせ」の群読をしたりと、工夫を凝らし、核兵器廃絶への思いを一つにしました。

そして、北陸3県の通し行進者泉行眞さんはリレーチームとともに歩き、各自治体での交流会にも参加され、核兵器廃絶に対する思いを語っていただきました。 皆さん、お疲れさまでした。

首長・議長からの禁止条約署名は県議会議長、黒部市長、上市町長、立山町長、立山議長、砺波議長の6人分が増えました。県議会議長からは初めてペナントもいただきました。ペナントが折り鶴の再生紙で作られているということも心に響いたと聞いています。

ロシアのウクライナ侵襲が続く中で行進となりました。日本でも世界でも「核兵器廃絶を」の思いが大きくなっている情勢でもありますが、一方では核共有や敵基地攻撃能力の保有、軍事費の2倍化など、大きな揺り戻しも起こっています。

国民の恐怖心をあおり、軍事力強化を進めようとする動きは大変危険です。抑止力は際限のない軍備拡大を招き、破綻します。核兵器はひとたび使ってしまうと、人類・地球の未来を終わらせてしまいます。偶発事故が人類の破滅を招きかねません。これからも、「戦争反対」「核兵器なくせ」の声を強く発信していきましょう。日本政府に核兵器禁止条約に参加するように迫りましょう。